

学苑会中執

まあよー

一九六九年、日本階級闘争は一月十八、十九の東大闘争における別当館・安田解放講堂の激烈な闘いをもって開始された。日本階級闘争の最先端を行く大学闘争は、明確に日本階級闘争の一翼をなすべく闘いへと発展している。帝

国主義大学解体の戦略スローガンは、日本資本主義社会の一角を構成している教育全体、ブルジョア教育秩序解体への闘いとしてあるが故に、政治的質を持った全人民的課題として提起される。この

合は明確に集され、安保粉砕、沖繩解放、全国大学闘争勝利は同盟の闘いであり、この三大スローガンは六九年日本階級闘争の重要な方針として提起される。

四・二六国際反戦デー・四・二八沖繩デー・六月愛知訪米阻止は六九年前半における主要な闘いである。取り分け四・二八沖繩闘争は革命派学生の戦いを明確な反戦青年委員会を中心とする革命的青年労働者に点火すべき闘いとしてあらねばならず、階級闘争における学生運動の一方面隊、先鋒隊としての任務を明確になさねばならない。

八四・二八沖繩闘争をいかに闘うべきか、沖繩とは東アジアの反革命的侵略の拠点であり、軍事要塞である。この沖繩の歴史的、政治的地位は過去も現在も一貫してある。人民の闘いを無視して、基地の町、得ない。



かもし日本に返還すれば沖繩問題が解決するかに言及議論は全く誤い、いかに発展させ、本土人民が

# 安保への連続闘争

—炭谷久雄—

## 発展的な69年日本階級闘争

解決するかに言及議論は全く誤い、いかに発展させ、本土人民がりと言わねばならない。「返還」これと呼応すべく闘いを、全国基地撤去闘争を繰り出す。同時に全国大学闘争の発展を押し進める闘いとして提起され、安保粉砕へと行かねばならない。安保闘争はすでに開始されているのであり、70年安保闘争は真にブルジョアプロレタリアートの全面的な対決を展開するものとしてあり、四・二八沖繩闘争はそのような内表を獲ち取るものとして展開されねばならない。70年代階級闘争は文字通り70年安保を闘う中で有利な、多性を引き出し総資本と総労働の激裂な日本革命の夜明けである。ブルジョア社会における価値判断はブルジョア社会における価値判断はプロレタリアートのものであることを認識しなければならぬ。

沖繩人民の祖国復帰運動は、米帝國主義に、米軍政に、自民党政府にお願いして奪取されるのではなく、沖繩が、反革命的の拠点としてある以ブルジョア教育の一角を構成している以上、今日の明大の諸矛盾はその根底の表れであり必然である。当然のこと

四・三〇団交は明確に明大闘争の出発点とならねばならない。ブルジョア社会における本質は「賃労働と資本」の関係でありこれを保証しているのである。日本資本主義社会に明治大学は存在し、かつブルジョア教育の一角を構成している以上、今日の明大の諸矛盾はその根底の表れであり必然である。当然のこと

四・三〇団交は明確に大学当局と学生の違いを大衆的に確認する中で、教育全体の根底的な問題を提起し、大学の自治なるものに行き届かない、帝大解体の全国学園闘争勝利の観点をもって明大闘争を水統的なものとして確認されねばならない。

去二の闘いへと発展し進行している。基地の島・沖繩でなくする事は、基地撤去であり米軍政打倒が、沖繩人民の解放はあり得ない。

四・二八沖繩解放闘争アジア階級闘争の観点に立って、沖繩人民の米軍政打倒、米軍基地撤去の闘